

部 長 富 嶋 明 人  
研究主任 中 西 珠 美  
部 員 数 2 0 名

## 1 研究主題

新たな価値を創出し、生活の中に生かす子ども

－ 子どもの思いや願いの実現をめざし、学び続ける授業 －

## 2 はじめに

昨年度は、上記の研究主題のもと各校で部員が研究を進めた。本年度は、4月に各校の現状や今後の取り組みについて話し合い、昨年度に引き続き上記の研究主題のもと研究を進めていくことにした。実践報告を行い、①子どもがどのような思いや願いをもったか、②そこからどのような気付きが見られたか、③教師の支援はどうだったかについて、1年生部会・2年生部会に分かれて考察した。さらに、今後の授業計画や取組について情報交換を行った。また、愛知県生活科教育研究大会(8月)、尾教研愛日支部生活部会教育研究集会(10月・Web開催)に参加をし、研鑽を進めた。

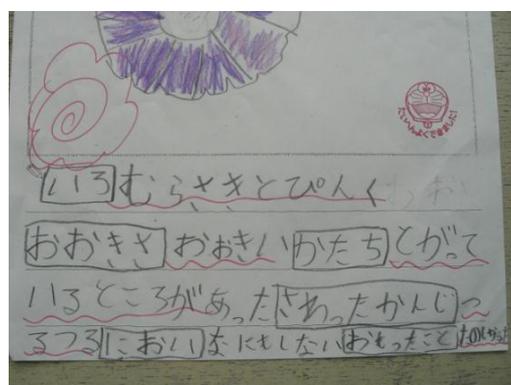
## 3 研究経過

- (1) 研究テーマに沿って、各部員の勤務校において実践し、各校の実践報告をもとに定例の研究会にて協議した。
- (2) 愛知県生活科教育研究大会及び尾教研愛日支部生活部会教育研究集会に参加し、実践事例の中から、参考となるところを日々の実践に生かした。

## 4 研究の概要

- (1) 1年生部会 単元「きれいにさいてね」(A小学校の実践より)

一人一鉢のアサガオの栽培を行った。初めて自分の手で植物を育てる子どもも多く、「早く大きくなってほしい」「きれいな花がさいてほしい」等の願いをもち、楽しみながら育てる姿が見られた。観察活動では、①目(見た感じ)、②鼻(におい)、③手(触った感じ)、④ハート(思ったこと)の4つの視点を与えることで、子どもが思いを表現しやすくなるよう働きかけた。また観察するだけでなく、自分で育てたアサガオを使って色水遊びをしたり、たたき染めをしたりすることで、自分だけのアサガオをより身近なものに感じられるようにした。



児童の観察記録

部会では、学習が始まったばかりの1年生が、自分で見たものや感じたもの、アサガオに対してもった思いや願いを言語化し、文章として整えることの難しさを共有し、子どもの実態に即した、教師の具体的な声かけや働きかけについて協議した。また、文章化するのが難しいからこそ、見たもの、感じたことなどを言語化させ、それを抛り所に全体で共有することで、一人一人の学びを広げ深めることの大切さを話し合った。

## (2) 2年生部会 単元「ぐんぐんそだてわたしのやさい」(B小学校の実践より)



タブレットで野菜を撮影する児童



自分の野菜を紹介する児童

一人一鉢の野菜の栽培を行った。自分が育てている野菜と友達が育てている野菜、1年生で育てたアサガオとの違いを見つけながら、観察活動を行う子どもの姿が見られた。観察する際には、国語の単元「かんさつ名人になろう」の学習で学んだことを生かし、1年生の時より詳しく観察することができた。また、一人一台のタブレットを活用し、野菜の写真を継続して撮影することで、植物がどのように成長していくのかを連続してとらえたり、他の植物と比べたりすることができた。さらには、成長の様子を全体で共有することもでき、友達の育てた野菜にも興味をもって、学習に取り組むことができた。

部会では、「実物を観察した後、タブレットで撮影した画像を用いることで、子どもたちは葉の模様や茎のとげ等、より細かいところまで追観察して、記録カードにかくことができる」「夏の暑い季節に、熱中症の心配なく観察することができる」等、タブレットの活用が、観察活動における有効な手段となり、学びを広げ深めるものになることを話し合った。

## 5 今後の課題

どちらの学年の学習でも、一人一鉢の栽培を行うことで、「自分だけのアサガオ」、「自分だけの野菜」になり、子どもたちは主体的に学習に取り組むことができた。1年生で学習した栽培や観察の仕方が、2年生の学習にも生かされていることも分かった。また、一人一台のタブレットを活用することで、今までの観察方法とは異なる視点をもって学習を進め、学びを広げ深めることができた。

子ども一人一人にそれぞれの思いや願いがあり、気付きの内容には個人差がある。子どもの思いや願いを具現化し、気付きの質を高めていくための、そして、気付きを共有することで学びを広げ深めていくための教師の支援の方法を、今後の実践を通して、さらに追究していきたい。